

お母さんのかんざし

小川未明

青空文庫

あるところに、母と少年とがさびしく暮らしていました。

あわれな母は、貧しかったから、その身になんの飾りというものを付けていなかったけれど、頭の髪に、青い珠のついているかんざしをさしていました。少年は、そのお母さんのかんざしを見るのが大好きでした。なぜなら、自分の顔が、小さく、どんよりと深い水のように、うるんだ珠の上にうつたばかりでなく、ときに、おばあさんの顔も、またあちらの遠い景色も、うつて見えるような気がしたからです。

この、昔からあったかんざしは、死んだおばあさんが、お母さんに遺していった、形見でありました。だから、お母さんが、そ

れを大事だいじにしていたのに、無理むりはありません。

ある日ひ、行商ぎやうしようにん人が、村むらへはいつてきました。黒いくろふろしきに、箱はこを包つつんだのをせおっていました。箱はこの中なかには、女おんなのほしそうな、指輪ゆびわや、かんざしや、いろいろのものがはいつていました。

男おとこは母親ははおやのかんざしに目めをつけて、

「いいかんざしをおさしですね。」といました。

母親ははおやは、恥はずかしそうに、うつむいて、

昔むかしふうで、こんなもの、いいものでありません。」と、答こたえましました。

「私わたしに、売うってくださいませんか？」と、男おとこはいました。

「おばあさんの形見かたみですから、まあ、持もつていきましょう。」

「なんなら、ここにある品しなと換かえてくださらないですか。ここには、さんごもあります。べつこのくしもあります。ほれ、こんなにいい根ねがけもあります。昔むかしふうのガラス珠だまのかんざしより、いくら、氣きがきいているかしれませんよ。」と、男おとこはすすめました。

母親ははおやは、流りゅう行こうの品しながほしかったけれど、がまんをしました。

「考かんがえておきます。」と、答こたえました。

「また、こんどきますから、よく考かんがえなさつておいってください。」と、行ぎよう商しょう人にんは、くれぐれもいつて出でてゆきました。

母^{はは}は、めったに外^{そと}へも出^でず、家^{うち}にいて、針^{はり}仕事^{しごと}をしていました。少年^{しょうねん}は、そばで、本^{ほん}を読^よんだり、算^{さん}術^{じゆつ}のけいこをしたりしました。母^{はは}は仕事^{しごと}ができあがると、それを持^もつて、町^{まち}へゆきました。少年^{しょうねん}も後^{あと}についていったのであります。あるとき、途^{とちゆう}中^{ちゆう}で、学^が校^{っこう}友^{とも}だちのA^{エー}くんのおばあさん^に、出^であいました。「お母^{かあ}さんと、おつかいですか？」と、おばあさんは、少年^{しょうねん}を知^しっているのです。にっこりと笑^{わら}つて、声^{こえ}をかけられました。少年^{しょうねん}も、母^{はは}親^{おや}も、おばあさん^にあいさつをしました。その翌^{よく}日^{じつ}、少年^{しょうねん}が、A^{エー}くんの家^{うち}に遊^{あそ}びにゆくと、おばあさんが、

「あなたのお母^{かあ}さんは、いいかんざしをおさしですね。」といわ

れました。

「あれは、死んだおばあさんの形見なんです。」と、少年はいいました。

「そうでしょう。昔のものでなければ、あんないいものはありません。」と、Aくんのおばあさんは、感心されました。

Aくんの家で遊んで、少年は、帰り道にAくんのおばあさんのいわれたことを思い出して、

「どうして、昔のものは、そういいのだろう。きつと、昔は、世の中も美しくなかったにちがいない。自分の家も、昔はよかったのだ。が、いまは、貧乏になったのだ……。」と、思いました。そして、それが矛盾したようにも考えられたのです。

「先生せんせいに、聞いてやろう……。世よの中なかが文明ぶんめいになつて、かえつて、品物しなものが悪わるくなるということを？」

その後のちも、あわれな母ははと少年しょうねんの暮くらしには、変かわりがなかつたのでした。

ある日ひのこと、村むらへ、また行ぎよう商しょう人にんが、はいつてきました。

これは、前まえにきたのでなく、べつの男おとこでした。そして、もつと、口くちが上じようず手ずでありました。

「奥おくさん、まだお若いわかいのに、こんな昔むかしふうのものをおさしになつては、おかしゆうございます。ここにこんな上じようとう等とうなさんご珠じゆがあります。足あしは金きんでございます。これとお換かえになつてはいかがですか。昔むかしふうのものを探さがしていらつしやるご老ろう人じんがありま

すので、私のほうは、損がいくのですが、お換えしようと申すの
です……。」「といいました。

母親は、前にきた行商人が、ガラス珠だといったこと
を覚えていたので、つまらない品とよい品と換えるなら、たとえ
形見であろうとも許してもらえようないきがして、その男の金の
かんざしと、自分の頭にさしている青い珠のかんざしと取り換え
たのであります。

行商人は、いそいそとして、村をあちらへ歩いて去りま
した。ちようど、その後へ、はじめにきた男が、いつものごとく、
箱をせおってやってきましたがいま、ほかの行商人とか
んざしを換えたということを話すと、びつくりして、目の色を変

えながら、

「ど、どれ、そのさんごの珠たまのついている、金きんのかんざしをお見みせなさい。」といいました。

そして、それを手てに取とって見みて、

「これは、めつきした安物やすものだ。あの青い珠あおたまはほんとうは、ガラスでない、珍めづらしい石いしなんです。どこのものか、知らないやつに、もうけられてたまるものか……。私わたしが、とりもどしてきてあげましょう。」と、金きんのかんざしを手てに握にぎって走はしり出だしました。

少年しょうねんは、その男おとこといっしょに走はしりました。

「大事だいじなお母かあさんのかんざしをとりもどさねばならない……。」「と、叫さけんで、先刻さつきの行商ぎやうしやうにん人の後あとを追おいかけました。

かんざしを取りかえた奴は、それと察したものか、とつとつと道^{みち}を急^いいで、その姿^{すがた}は、野原^{のほら}のはてにかすんで、小^{ちい}さく見^みえました。二人^{ふたり}は、けんめいになつて走^{はし}つたのです。

「おうい、おうい。」

この時^じ分^{ぶん}から、空^{そら}は、曇^{くも}つてきました。そして、雷^{かみなり}が鳴^なりはじめました。少^{しょう}年^{ねん}は、だんだん疲^{つか}れて、男^{おとこ}におくれました。野原^のを越^こして、海^{かい}岸^{がん}に出^でたときには、海^{うみ}の上^{うへ}は、墨^{すみ}を流^{なが}したよう^{くろ}に暗^{くら}くなつて、電^{でん}光^{こう}は流^{なが}れ、雷^{かみなり}はすぐ近^{ちか}くで鳴^なり、たきのような太^{ふと}い雨^{あめ}が降^ふつてきました。このものすさまじい景^け色^{しき}の中^{なか}で、二^ふ人^{にん}の男^{おとこ}は、たがいに欲^{よく}のために、死^しにものぐるいになつて、組^くみ打^うちをしていました。少^{しょう}年^{ねん}は、いまにも、雷^{かみなり}が、頭^{あたま}の上^{うへ}に落^お

ちそうなので、浜^{はま}辺^べに、引^ひき上^あげてあつた、船^{ふね}の下^{した}に腹^{はら}ばいになつて、二人^{ふたり}のけんかを見て^みいる中^{うち}に、二人^{ふたり}は、岩^{いわ}の鼻^{はな}先^{さき}から、抱^だき合^あつたまま、うず巻^まく波^{なみ}の中^{なか}に落^おちたかと思^{おも}うと、そのまま海^{うみ}は、二人^{ふたり}をのんでしまいました。

しばらくすると、空^{そら}は、けろりと晴^はれて、海^{うみ}の色^{いろ}は青^{あお}く、それは、お母^{かあ}さんのかんざしの珠^{たま}よりも青^{あお}く、あちらの夕^{ゆう}焼^やけは、また、さんごよりも紅^{あか}かったのです。しかし、そこには、もう二人^ふたりおとこすがた^み人の男^{おとこ}の姿^{すがた}は見^みえませんでした。少^{しょう}年^{ねん}は、ひとりそこに立^たつて、この夢^{ゆめ}のような話^{はなし}を家^{うち}に帰^{かえ}って、どう語^{かた}ろうかと考^{かんが}えていたのです。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 7」講談社

1977（昭和52）年5月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第6刷発行

底本の親本：「未明童話集5」丸善

1931（昭和6）年7月10日発行

初出：「童話研究」

1929（昭和4）年7月

※表題は底本では、「お母《かあ》さんのかんざし」となっています。

※底本の編者による語注は省略しました。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：きゆうり

2020年3月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

お母さんのかんざし

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>